



「貴乃花グループ」の足下で……(大嶽親方と元大関・千代大海)

窮地に陥った大関・琴光喜

目下、夏場所が行なわれている東京・両国国技館。館内には常時、32枚の優勝額が掲示されている。それが物語るのは、優勝から遠ざかるようになって久しい日本力士の不甲斐なきである。現在、掲示されている日本人力士の優勝額は06年初場所の栃東のみ。今や相撲協会にとって日本人力士の優勝は悲願といってもいい。

その裏には、強い日本人力士の出現によって、地に墮ちてしまった相撲界のイメージアップを図りたい、との考えもある。何しろここ数年、角界は不祥事に塗れ続けている。3年前は、時津風部屋の力士暴行死事件。一昨年は、ロシア力士を中心とした大麻問題。そして、今年、「泥酔暴行騒動」を起こした元横綱・朝青龍が本誌の報道をきっかけに引退に追い込まれたことは記憶に新しい。

久方ぶりの日本人力士の優勝——。東の大関・琴光喜は、

喜は、不祥事に喘ぐ協会、そして相撲ファンの期待を一身に受ける立場にある1人といえよう。今場所は10日目を終えて6勝4敗。今後、優勝争いに加わるのは厳しい状況だが、目下、彼の足元で相撲界を揺るがす大騒動が巻き起こっていることはほとんど知られていない。

事情を知る相撲協会の関係者が囁く。

「実は現在、琴光喜は、あるトラブルに頭を悩ませているのです。それは、恐喝。しかもその原因は、自分が違法なプロ野球賭博に手を染めてきたことにある。琴光喜は5年以上前から野球賭博を始め、これまでの通算の負金が数千万円に上る

相撲界に激震が走ることに必至なのである。大関・琴光喜(34)が違法なプロ野球賭博に手を染め、そのことを巡って暴力団関係者から「1億円を払え」と脅されているのだから尋常ではない。しかも、「客」は大関1人にあらず。「国技」を蝕む「賭博汚染」の実態とは。

ている。

①巨人VSロッテ(巨人から1・7のハンデ)

②広島VS日本ハム(日本ハムから0・8のハンデ)

③横浜VS西武(西武から1半3のハンデ)

「もちろんハンデは、勝利が予想されるチームの側から出る。試合の2時間前までに胴元からハンデが発表され、客は試合の1時間前までに賭金を決めます」

こう解説するのは、先の元暴力団幹部である。

「まず①の試合。巨人が2点差以上で勝てば、丸勝ち。100万円を賭けていれば、100万円の儲け。テラ銭10万円を引かれた90万円を手にとれる。巨人が1点差で勝った場合は、7分負け。賭金100万円なら70万円の損となる。引き分けなら、丸負けです。

②の試合では、同じ要領で日本ハムが2点差以上で勝てば丸勝ち。1点差なら2分勝ち、引き分けなら8分負け」ということにな

ります」

③の試合はどうか。

「半」というのは、点差が2点以上になりそうな試合につけられます。③の場合、西武が3点差以上で勝てば丸勝ち、2点差なら3分勝ち、1点差なら丸負け」となります

と、この元幹部が続ける。

無論、胴元側だけではなく、客として野球賭博に興じるのも、紛れもない違法行為である。

「琴光喜に、野球賭博をやらなにか」と持ちかけたのは、ある床山。琴光喜とは別の部屋の所属ですが、同じ一門だったため、今でも彼の鬚を結うこともある人物です」と、明かすのは、事情を知る協会関係者(前出)。

私の知人が野球賭博の仲介役をやっている。彼を通じて金を賭けてみないか——。そんなふうに持ちかけたというが、ここで登場

「大抵、電話でやり取りが行なわれ、試合がないことが多い月曜日にまとめて清算する。野球賭博はイカサマが介入する余地がないため、ピッチャーの防御率やチームの状態などを勘案して予想すれば、他のバクチに比べて客が勝つ可能性が高いので面白いのです」

「琴光喜は愛知県岡崎市の出身で、地元・中日ドラゴンズの大ファン。また、彼のバクチ好きは角界では有名。特に好きなのが花札で、部外者も出入りする支度部屋などでも堂々と金を賭けてやっている」

と、相撲記者が言う通り、賭け事に目がない琴光喜はすぐさま床山からの誘いに応じたという。それが、前述したように5年以上前の

支払いは「ゆうパック」で

「大抵、電話でやり取りが行なわれ、試合がないことが多い月曜日にまとめて清算する。野球賭博はイカサマが介入する余地がないため、ピッチャーの防御率やチームの状態などを勘案して予想すれば、他のバクチに比べて客が勝つ可能性が高いので面白いのです」

「琴光喜は愛知県岡崎市の出身で、地元・中日ドラゴンズの大ファン。また、彼のバクチ好きは角界では有名。特に好きなのが花札で、部外者も出入りする支度部屋などでも堂々と金を賭けてやっている」

と、相撲記者が言う通り、賭け事に目がない琴光喜はすぐさま床山からの誘いに応じたという。それが、前述したように5年以上前の



ことである。琴光喜の初土俵は99年。トントン拍子に階段を駆け上り、2年後には早くも幕内優勝を果たした。しかしその後はケガなどに悩まされ、幾度も大関昇進に挑戦するものの、失敗。ようやく念願の大関昇進を成し遂げたのは、3年前のことだった。

「野球賭博をやり始めた当初は、床山が琴光喜から試合の予想を聞き、賭金を預かり、元力士の山科とやり取りしていた。が、途中から琴光喜は床山を介さず、直接、山科とやり取りをするようになったのです」と、先の協会関係者。

「試合予想と賭金の額をメールで山科に伝え、清算は1週間ごと。トータルして負けた場合は、ゆうパツク”を利用して金を払って

いた。勝った場合は、床山の口座に振り込まれた金を受け取っていたのです」

そうして違法なギャンブルに熱中するうちに負金は積もりに積もり、その額は数千万円にまで膨れ上がった。負けを取り返そうとしてさらに多額の金を賭けるという蟻地獄に嵌り込んだのである。早くから将来を囑望されながら、大関昇進が意外なほど遅かった背景には、そうしたことがあったのかもしれない。

いずれにせよ、現役の力士、それも大関が違法賭博に手を染め続けてきたことだけでも一大不祥事。が、本当の問題はここからだ。

協会関係者によれば、

「昨年末、琴光喜は自分が受け取るべき勝金数百万円の支払いを仲介役の山科に求めました」

すると、山科は次のように応じたという。同じく自分を仲介役とする野球賭博の客がいる。それは、阿武松部屋の現役力士の木下

(仮名)。彼に野球賭博での貸金が数百万円以上ある。だから、木下に請求してくれないか、と。

「困った琴光喜はすぐさま床山と、元大関・千代大海の2人に相談しました。それで、床山が琴光喜の代わりに木下サイドに金を請求したのです」(同)

が、ここで木下の兄が登場してからは厄介な方向へと進み始める。木下の兄は元力士で、廃業後、九州

大阪場所中の話し合い

脅された琴光喜は信じ難い愚拳を犯す。あろうことか、床山を通じて木下側に数百万円を支払ったのだ。

協会関係者が続ける。

「今年に入ってからも脅しは続き、暴力団の影をちらつかせながら要求はどんどんエスカレートしていった。そして、3月14日から28日の間に行なわれた大阪場所の最中、まず床山が木下の兄達に呼び出された。そこ

でデリヘルの経営に携わったこともある人物。暴力団元構成員でもある。

「木下の兄は、琴光喜が金を請求していること、千代大海が自分の悪口を吹聴していることを耳にして激怒。請求された数百万円を琴光喜に払うどころか逆に彼を脅しにかかるのです。現役の大関が野球賭博をやっていることが世間に知られたら大変な騒ぎになる。口止め料を払え」と(同)

で、胴元の暴力団にも迷惑がかかる。筋を通すためには1億円が必要だ」と脅されたのです」

状況の悪化に悩んだ琴光喜は、ある人物に相談を持ちかけた。大嶽親方(元関脇貴闘力)である。

「実は、大嶽親方も、阿武松部屋の元力士・山科を仲介役とする野球賭博の長年の上客だった。そして、床山が呼び出された翌日、琴

光喜側と木下側は大阪市内で会って話し合いを持っていきます。琴光喜側は、彼本人と大嶽親方、時津風親方、木下側は、木下兄弟2人と、九州の暴力団員と称する男です。その場でも木下側は「口止め料として1億円を払え」と脅した」(同)

いくら大関とはいっても1億円である。簡単に払える金額ではない。そして、このトラブルが解決しないまま、琴光喜は今場所を迎えたのである。木下側が次にどのような拳に出るか。おそらくは日々、そのことに怯えながら……。

さて、今回の騒動の当事者たちは何と答えるか。

まずは琴光喜。騒動に登場する床山や仲介役の山科、木下兄弟を知っているか、との質問に対しては、

「知っていますよ」

と認めたものの、長年野球賭博に興じていたことについては、

「知らないです」

口止め料として1億円を

は……。まだまだ膿を出し切っていないかったということ。表面的な改善策を弄したところで角界の体質は何ら変わらないのです」

夏場所を襲った「野球賭博・恐喝トラブル」という黒い竜巻。対応を迫られる相撲協会の武蔵川理事長は、「事実とすれば、大変な問題です。野球賭博も恐喝も犯罪。暴力団と付き合うどころかドッキリと浸かってしまっているとは情けない。関係者と師匠から話を聞くことになるでしょう」と、徹底調査の構えを見せている。果たして、その結果や如何に――。

払え、と脅されているのではないか、との質問にも、

「ないっすね」

などと言って口を閉ざすばかりであった。

琴光喜を脅している張本人とされた木下の兄も、

「自分がかつてそういう組織(暴力団)にいたのもデリヘルをやっていたことがあるのも事実です。でも、琴

光喜を脅迫したことはないし、金を払えと脅したことも金を受け取ったこともありません」

その他の関係者である大嶽親方、元大関・千代大海、仲介役の元力士・山科らも同様である。あたかも皆で示し合わせたかのごとく、

「知らない。分からない」

そう繰り返すのだった。

他の幕内力士の名前も

「犯罪行為ですから、簡単に認めるわけにはいかないでしょう。が、琴光喜が野球賭博に手を染め、それが元で脅しにあっていること

は紛れもない事実です」

改めてそう話すのは、先の協会関係者である。

「しかも、山科や床山を仲介役とする野球賭博の客は

琴光喜や大嶽親方だけではない。少なくとも彼ら以外に2人以上、幕内力士の名前が挙がっている。コトは琴光喜1人の問題ではない。相撲界の「野球賭博汚染」。今回のトラブルをきっかけに、その実態が暴かれる可能性があるのです」

さらに、である。

「気になることがもう1点ある。今回の騒動に登場するのは、今年2月の相撲協会理事選挙で貴乃花親方を推したグループの関係者ばかりなのです」

と、別の協会関係者。

「大嶽親方は貴乃花親方と共に二所ノ関一門を飛び出

したグループの首魁。現役力士の木下が所属し、また仲介役の山科が元々いたのは、阿武松部屋。この阿武松親方も貴乃花グループの一員です。そして琴光喜も、一門の意向に反して貴乃花親方に1票を投じた1人。自らの足元で今回のようなトラブルが起こっているようでは、貴乃花親方がいくら相撲界の改革を叫んでも説得力はないと言わざるを得ません」

相撲ジャーナリストの中澤潔氏が憤慨する。

「ようやく健全化しつつあるかに見えた矢先にこのようなトラブルが発覚すると

結果や如何に――。